



新春明けましておめでとうございます
今年の平和委員会も、皆さんと共に頑張ります！



代表理事 飯田 美弥子

あけましておめでとうございます。

ロシア・ウクライナ間の軍事衝突が収束しない中、昨年はい新たに、パレスチナ・ガザ地区での戦闘が始まり、日々多くの市民が犠牲になっている様子が報じられ、胸が痛む年頭です。今の戦闘が将来の新たな報復を招くのではないか。人間には、この憎悪の連鎖を断ち切る叡智はないのか。

心折れそうになりながらも、しかし、諦めるわけにはいきません。

万一、核兵器が使用されれば、人類と地球とに

対し、取返しのつかない打撃になることは明白です。平和憲法を持つ国として、世界に発信を続けることの意味はより重要になっていると感じます。

国内では、国防の名の下に、国民生活に背を向け続けてきた岸田自民政権が、党内派閥の裏金問題により、支持率を急落させています。アベ一強と言われた政治状況は、実は金によって作出された見せかけにすぎなかったと知れました。

国民の手で真の民主主義を構築する、諸国民の叡智による世界平和を希求する。そんな希望を、夢を、皆さんと共有しながら、次世代にも今の平和を手渡すべく、今年も活動していきたいと思ひます。



代表理事 青木 勇

代表理事の任務を昨年お受けした「平和の会しもつま」(以下本会)の青木勇です。

本会は結成8年目を迎えた2023年に、初めて「戦争と平和パネル展」を開催いたしました。その実現のきっかけとなりましたのが、平和行進下妻実行委員会として取り組んだ(これも初の)平和行進でありました。

本会結成以来、他地域の活発な平和の会と比較して取り組めていないいくつかの活動の中で、「戦争と平和パネル展」は、何とかしてやれないものかと自問しつつの8年間でした。2023年は実りの年になりました。

明けて2024年。平和行進と平和展について、「パネル展示」に加えて、映画「はだしのゲン」の上映を計画しています。市側の対応も考慮する必要もありますが、市内の小中高校への宣伝なども課題として出されています。実行委員長として頑張らねばならぬ1年となるでしょう。月に1, 2回の会議のための水戸行き。「遠い所をご苦労様」と言われる心地よさ。何より水戸線に揺られながら本を読んだり、通学生をチラ見したりの60分は貴重なひとときと言えるでしょう。

この文章が年頭のごあいさつになるの？私が代表理事に相応しいの？そんな自問はやめにして、とにかくがんばりますので、この1年、よろしくお願ひいたします！



事務局長 篠原 睦

明けましておめでとうございます。今年はい辰年。政変が起りやすい年と言われます。

しんぶん赤旗は、自民党が

組織ぐるみでおこなっていた裏金づくりを告発。昨年末には東京地検特捜部によって安倍派と二階派の事務所が強制捜査されました。安倍晋三元首相が銃撃されて亡くなったことをきっかけに自民党と旧統一教会との癒着、今回の金権腐敗ぶりがあぶり出され、「国葬」に値しない人物だったと改めて思ひます。

岸田文雄首相は、財界とアメリカ言いなりに大軍拡と増税を目論み、国民との矛盾、平和との矛盾から支持率が急落しています。市民と野党の協力によって憲法を生かした新しい政治に大転換する一年にしたい。

昨年の4月以降19人の入会者を迎えました。地方議員、ご夫妻や紹介者

のお弟子さんなど多彩な方々が仲間になりました。一方、高齢等により退会された方も多く、現状を維持できないでいます。平和の文化の灯りを次世代に継承する努力にチャレンジし続けましょう。

「自衛隊への個人情報提供」問題に関しては、県内44自治体からアンケートを回収し、「秋の宣伝チラシ」と「新聞意見広告」に取り上げました。個人情報は人権そのものであり、自治体を「戦場への窓口」にしてはならない、そして「徴兵制」につながる危険性を訴えました。

今年はい、この「個人情報提供」問題や日本政府に核兵器禁止条約に署名・批准することを求める意見書採択、土地利用規制法等の学習会や運動に取り組みたいと思ひます。ともにがんばりましょう！

52回目の街頭宣伝行動
続けることがから!

ガザ支援募金も寄せられる



戦争法の廃止をもとめる「12月19日」行動には会長の田中重博さん、茨城労連事務局長や茨厚労書記局の女性2人、審判マンなど10人が水戸駅北口に参集しました。昨年2月のロシアによるウクライナ侵攻反対から数えて52回目のスタンディングに。県平和委員会の木村泉代表理事もリレートークに参加するなど約1時間の街頭宣伝となりました。

田中会長は岸田政権下の裏金問題と金権腐敗の深刻さ、自民党政治からの大転換を訴えました。木村代表理事は、イスラエルによるガザのジェノサイドともいえる無差別攻撃の中止と「新しい戦前」にさせないために反戦平和運動を、と力説。岡野一男労連事務局長は最低賃金を1,500円に引き上げることが賃上げと少子化対策になる。日立市の千葉達夫さんは子育て真っ最中の当事者として、軍事費



を削って子育て支援に回せと主張しました。東京から水戸に出張に来られたという男性は、しばらく立ち止まって聞いていましたが、ガザ支援と言って400円を募金してくれました。また1万3千円のカンパが県平和委員会事務局に届けられています。

百里基地航空祭「特別公開日」見学報告 自衛隊の広報活動が巧妙になっている

百里基地航空祭「特別公開日」の12月16日(土)、3人で見学した。栗又衛さん(百里平和委員会事務局長)に送られて来た招待状と駐車券を見せ、正門から広大な基地に入る。手荷物検査を受け、エプロン地区(駐機場)に向かうとすでに数千人の見学者がいた。



招待状は、自衛官や基地関係者の家族・知人、近隣の区長(2~3千円相当のカレンダーも贈られている)や地域住民、議員など幅広く配られているようだった。子ども連れの家族や青年たち、大勢の老若男女が行き来していた。宇宙戦艦ヤマトの主題歌などのメロディーが大音量で流され、航空「祭」の雰囲気を出していた。進行係のアナウンスも淀みなく自衛隊の広報活動が巧妙になっていると感じた。

エプロン地区には、戦闘機・輸送機・訓練機・ヘリコプターなど29機が展示されていた。C-1中型輸送機(全長29m 定員60人)は搭乗可能ということで長蛇の列ができていた。百里基地に配備されていたF-15戦闘機も沖縄に移転したため、航空祭には石川県小松基地から2機飛来していた。

F-15(別名イーグル)は、航空祭の目玉となっており、戦闘機マニアにとって撮影したい機体だというのが殺傷能力は高い。イーグルは離陸しなかったが、パイロットは滑走路を走行しながら見物客に手を振っていた。それに応えるように手を振る見物人もいた……。

F-2(米国製F-16を三菱重工などが改良)は格納庫で展示されており、説明板には「東京と大阪間約500kmを約12分で飛行。空対空レーダーミサイル×4発」などとあった。先月、F-2が大分・岡山空港を使って離発着訓練を実施している。自衛隊

基地が攻撃を受けて使用できなくなったことを想定してだが、その際は民間空港も同時に攻撃されることは明らかだ。ウクライナのように多数の民間人が犠牲になることも想定内なのだろう。「安保3文書」改訂によって民間空港や港湾の整備・拡充をおこなないながら継戦能力を高める訓練が頻度をましている。



迎撃ミサイルPAC3を説明するエリアでは、発射装置を付けた車両の運転席に、迷彩ヘルメットを借用した子どもを座らせ、記念写真を撮っている家族もいた。5歳くらいの男の子が、ヘルメットを被り、敬礼の真似事をしたのには驚いた。その他、警備犬訓練のイベントがあり、飲食物やお土産・ミリタリーショップなどたくさんの店が出ていた。クラスター爆弾やミサイルなどの兵器も展示されたこともあったと聞いていたが、今回はなかった。パレスチナ自治区ガザの惨状が連日報道されており、実戦で使われている兵器類は外したのかもしれない。



エプロン地区からは「自衛隊は憲法違反」の大看板が遠望できた。また百里平和公園を隠すように3年前に設置されている高さ約6m幅20~30mの壁も見えた。百里基地反対闘争と反戦平和運動が滑走路を「く」の字に曲げさせていること、爆音や事故の不安などによって地域住民が安心して暮らせないこと、岸田政権の軍事優先・アメリカ言いなり実態などについて、来場者には知ってもらいたいと思った。百里基地は12月11日、土地利用規制法による「特別注視区域」に指定されており、「機能阻害行為」を理由に勧告・命令を出す可能性がある。気が抜けない取りくみが続く。《報告:県平和委員会事務局長:篠原 睦》

六三郎
「はみだしコラム」2024年は「辰年」。金権腐敗政治を「載つ」。大軍拡増税を「断つ」。街頭宣伝に「立つ」。何度も「起つ」。ともにがんばりましょう!